

平成 28 年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月16日実施)	総合評価(3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	○生徒が自ら課題を発見し解決する力を育み、主体的に学ぶ意欲を高めることを目指した不断の授業改善の実施等、これからの時代に求められる資質・能力の育成に向けた教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・現行教育課程の課題洗い出しと改編準備 ・米国アランデル高校との交流推進 ・課題解決型学習の試行 ・ディベート力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・共通教科・科目を中心に、生徒の特性や地域・学校等の実情を踏まえた、普通科として適切な教育課程の編成 ・米国アランデル高校との交流促進のための新たなプログラムの開発 ・アクティブラーニング並びに課題解決型学習の実践 ・スタートキャンプ及び総合的な学習の時間でのディベートの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程改善のための組織的な検討の進捗状況。 ・米国アランデル高校との交流で新たなプログラム開発ができたか。 ・より多くの授業でアクティブラーニングの視点を取り入れた授業実践ができたか。 ・スタートキャンプ及び総合的な学習の時間で充実したディベートとなったか。また、教員の指導力向上が図られ、生徒のディベートの内容が深まったか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 29 年度入学生の教育課程を変更。国公立大学への進学等第一志望実現へのさらなる支援を目指し、必修科目・選択科目ともに充実を図り、週あたりの授業時数増と時程の変更を行った。 ・アランデル高校との交流を継続。参加希望者が増加した。 ・公開授業及び授業研究協議会において全教職員がアクティブラーニングについての知識を得て各々が積極的に取り組んだ。 ・スタートキャンプのプログラムを新入生が県相での3年間をどう過ごすかについてより深く考えることができるよう一部変更した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい教育課程で学ぶ生徒を主体的な進路選択に導くことができたか。時程変更により文武両道のさらなる深化が図られたか検証する。 ・アランデル高校との交流について新たなプログラム開発に取り組むこと。 ・生徒主体の深い学びを意識した授業づくり特に授業評価の質問項目④の評価結果の上昇を目指す。 ・生徒自らが主体的、意欲的に高校生活に向き合うことができているかを検証する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程改編の理念を明確にし、国公立大学への進学を視野に入れて授業づくりをしてほしい。 ・授業改善への取組は他の学校よりの大きく進んでいるがそれが成果につながっていない印象である。 ・授業評価の結果分析は、評価平均で行うのは効果的でない。1・2 という低い評価の質問項目を徹底的に洗い出し、そこに手を入れて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 29 年度入学生徒の教育課程を変更できたことは成果である。第一志望実現に向けて各教科の授業内容の充実を図り、補習講習等によりさらに生徒の学力向上を目指す。 ・国際交流の柱として実施しているアランデル高校との交流は次年度初めて訪問受け入れを行う。 ・ディベート研修等で教職員が指導のスキルを身に付けており、授業にも効果的に取り込んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程を変更したことで国公立大学進学を目指す生徒のニーズにも応えることができる体制を整えた。長期休業期間や早朝や放課後補習を充実させることで授業内容をさらに高度なものにする。 ・訪問受け入れ時のプログラムを検討し、多くの生徒が訪問してくる生徒と関わるができるようにする。 ・生徒の深い学びを保障し、論理的に考えることの訓練を継続して行う。
2 (幼児・児童・) 生徒指導・支援	○「礼節・信義・根性」という校訓、「文武両道・切磋琢磨」というモットー、県相8Cを基盤とするバランスのとれた教育活動の展開による、豊かな人間性や社会性の涵養、社会とのつながりを意識し責任を持って関わろうとする人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車事故件数の対前年度比での減少 ・人権の日の設定による人権意識の高揚定着 ・各学年早期に於ける個別面談の実施 ・教育相談体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・校訓、モットー、県相8Cそれぞれに込められた精神の実践 ・交通安全教育、道徳教育、健康教育、人権教育、防犯・防災教育等の実施 ・個別面談の計画的実施と情報の効果的な活用 ・教育相談の充実に向けた関係グループ等の連携 ・各種活動への生徒の主体的な参画の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・校訓、モットー、県相8Cそれぞれを日常生活の中で実践させることができたか。 ・自転車事故の件数が減ったか。 ・個別面談の計画的実施と情報の効果的な活用ができたか。 ・教育相談体制の充実に向け関係グループの連携が図られたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校集会等の機会に、校長及び生活GのGLから生徒向けのメッセージを発信し意識づけをした。 ・月例(16日)で人権教育通信を発行し、生徒の人権意識の高揚を図り、生徒同士が互いを尊重する雰囲気が一層できた。 ・定期的に生徒に関する情報交換を行い、必要に応じてケース会議をもち、教育相談体制の充実に努め、その結果生徒の個別の支援につながった。 ・地域からの要請に積極的に応じる形でボランティア活動等に取り組む、生徒がそれぞれに地域において役割を果たしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入学から卒業まで日常生活で継続して実践させるための意識づけの機会の確保 ・交通事故が増加傾向にあり、交通安全教育の充実と事故防止の方策の検討。 ・個別の教育的ニーズに組織的に対応できる体制の構築。 ・生徒の活動の様子を積極的に外部に発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的な取組に繋がる教育活動を展開することが大切。 ・交通事故は絶対に撲滅しなければならない問題。毎年同じ状況なので一歩進めた取組が必要である。 ・生徒側に過失がなくとも事故は絶対に起こしてはならない。 ・本校の生徒はメンタルが弱いので「心の教育」の充実を図るべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校集会や人権の日など機会を捉えて生徒に向けて積極的に発信をし続けている。 ・相手側の過失によるものを含め交通事故の発生は多い。(年間で18件) ・教育相談COと養護教諭が連携し、気になる生徒の情報やケース会議で共有するなど教育相談体制が機能し始めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の中にしっかりと根付くようにスタートキャンプ等の機会を徹底した指導を行う。 ・全校放送による注意喚起後に事故件数が減少しており、一定の効果は認められる。あらゆる方策を用いて生徒に注意喚起を行う。 ・担任が一人で対応することがないように、学年の職員全員が積極的に生徒に関わる体制をさらに強める。
3 進路指導・支援	○大学卒業後の進路(生活設計)をも視野に入れた進路設計を行い、課題を整理・解決し、実現に向けて継続	<ul style="list-style-type: none"> ・進路決定率のアップ ・計画的な外部試験の実施 ・高大連携講座の深化・充実に努める 	<ul style="list-style-type: none"> ・長期的なキャリアプランに基づいた人生設計の道筋の提示 ・外部試験を活用し、客観的、計画的に自己の学習成果を図る環境の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路決定率が上がったか。 ・生徒の外部試験等の受験状況と成果分析。 ・高大連携講座の内容と質の向上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年度の進路決定状況については現在状況のとりまとめを行っている。 ・校内模試等については実施後に実施主体に依頼をして振り返りについての講演会を行うなど 	<ul style="list-style-type: none"> ・入学試験の大幅な変革が進められており、説明会や分析報告会等の情報を積極的にとることが求められる。 ・模試のデータ活用について研修会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学進学の結果については国公立大学受験者数が減少した理由などを詳細に分析する必要がある。 ・学校の取組が生徒の進路実績に直結していない理由について 	<ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学の合格者数は減少してしまっただが、全体として考えると現役の合格率や合格者数は増えた。 ・早い時期に国公立大学受験をあきら 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程を改編したことの成果が求められる。スタートキャンプから高い目標を持たせた指導を行う。 ・センター試験対策等の情報をタイム

		的、計画的に努力する力の育成		・現在の連携大学との連携の強化及び新規連携大学の開拓	(連携先の開拓と新規プログラムの実施)	ど生徒の学習計画の立案を支援した。また生徒の校外の模試の受験は増加傾向にある。 ・高大連携講座については、ガイダンス講座12講座・教養演習講座27講座を開講した。連携大学の協力により生徒の評価は高い。	充実を図るとともに実施方法を工夫して継続的な実施を目指す。 ・理数教育推進のプログラムとの調整が必要であり、実施規模の検討が必要となる。	ても検証が必要。 ・教育課程再編の意義を生かせる進路指導が必要。	めてしまう生徒がおり、最後まで意欲を継続させることが課題。 ・課題研究に取組むことで理科学的な思考力や論理的思考を鍛える。	リーに発信し、最後まであきらめずに受験する生徒を増やす。 ・総合的な学習の時間のプログラム開発に取組み、
4	地域等との協働	○地域から期待され信頼される進学校としての、地域のニーズに応える連携した教育活動の推進による、地域社会に責任を持って進んで関わろうとする人間の育成	・より多くの地域貢献活動への参加	・学校運営協議会制度の導入を視野に入れた、地域等との協働の推進 ・地域に開かれ、地域と共にある学校づくりの推進 ・地域貢献活動の継続と充実	・地域のニーズを的確な方法で把握することができたか。 ・学校から地域に新たな発信ができたか。 ・地域貢献活動への参加機会が増えたか。	・授業研究協議会(公開研究授業)と学校評議員会を同日開催とした。 ・市役所や区役所の担当部署と連携を図り、地域の行事等に生徒のボランティア派遣を積極的にに行った。 ・地域貢献活動として保育所の簡易プール設置や学校周辺の美化活動に生徒が積極的に取り組んでいる。	・地域住民に公開する事業をさらに増やすことを検討する。 ・市役所や区役所との相互連携をさらに進めることで地域の学校としての役割を果たす。 ・学校から地域への発信の機会を増やすことを検討する。	・地域の行事等には協力的で地域への貢献が顕著である。 ・地域とともに活動することができており、良好な関係が築かれている。 ・インターンシップなどはもう少し長い時間をかけて実施できるとより効果的である。	・地域からの要請が多く、生徒にとっては活動発表の機会が増えることで意欲につながっている。 ・市役所及び区役所職員が学校との連携を強く意識しており、積極的に関わる姿勢を示している。	・ボランティア活動等を生徒の発表の機会として前向きにとらえ積極的に参加を呼びかける。 ・現状は各種イベントへの参加要請が多いが、地域との結びつきを強めるための新たな企画を市役所等と協議していく。
5	学校管理 学校運営	○生徒の多様な自主的活動を支える仕組みや、生徒の意見を生かした安全で安心な学習環境の整備 ○事故の未然防止と地域に開かれ、地域と共にある学校づくり推進に資する効果的な広報活動の実践	・学力向上を支える個別学習環境の整備・改善 ・PTAとの連携・協働 ・事故防止の推進 ・公式ホームページの充実	・「県相を考える委員会」の主体的で効果的な運営 ・自習室の整備、攻め机(質問コーナー)の整備 ・PTAとの連携・協働の促進 ・事故防止に向けた積極的取り組み ・公式ホームページの適時更新	・生徒が自主的に学ぶための学習環境の整備・改善の状況。 ・PTAとの連携・協働を通じた、校内美化などの活動への参加状況。 ・事故防止に向けた取り組みを積極的に行えたか。 ・ホームページの適時更新ができたか。	・生徒の自習環境や教員への質問に対応するために自習室の整備を行い、攻め机にはホワイトボードを増設した。 ・PTA環境整備委員会が中心となり花壇整備や壁のペンキ塗り等の校内美化活動を行った。 ・校内の事故防止については時期に応じたテーマの啓発資料等を配付し、職員の意識啓発に取り組んだ。 ・公式ホームページは適時に更新を行い、常に最新の情報を掲載している。	・耐震工事の影響が懸念されるが、生徒の学習環境の維持に努める。 ・校内の各所で老朽化が進み、美化活動だけでは支えきれない状況も発生している。 ・事故防止の啓発活動がマンネリ化しないよう事故防止会議のあり方を検討する ・ホームページ担当者のスキルに依存しており、継続性の確保が課題である。	・教育環境の整備に積極的に取り組んでおり、成果があがっている。 ・耐震工事の影響を最小限にとどめる努力と工夫が必要。 ・学校説明会等で発信をしているが、理系に特化した学校に変わるのではないかと懸念が保護者や中学生の間で話題となっている。	・職員室前の質問コーナー(攻め机)にホワイトボードを増設したことで質問にくる生徒が増加している。 ・生徒は工夫をして丁寧に使用しているが校舎の老朽化が進んでおり校内美化活動にも限界を感じる。 ・公式ホームページは更新を頻繁に行い、学校の教育活動を広く周知することができた。	・自習室の整備をさらに進めることが必要。倉庫として使用している教室は自習室として整備することを検討する。 ・耐震工事の進捗状況と調整を図り、引き続き校内美化活動に努める。 ・ホームページ担当者の引継ぎを意識して複数で担当する体制を整える。